

林業福島

No. **716**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 小檜山善継



4

2024

監 修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 萌え出づる



豊かで活力ある森林を次の世代へ

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 小檜山 善 継

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会の運営につきましては、日頃よりご支援、ご協力をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

さて、この三月十一日で東日本大震災から九十三年が経過しました。震災、原発事故で大きな影響を受けた森林・林業の復興・再生は、関係者の皆様の懸命な努力はもとより、多くのご支援を頂いて歩みを進めてまいりました。今後、森林・林業の再生を成しとげ豊かな暮らしを取り戻すために、「第二期復興・創生期間」の四年度目となる令和六年度においては、「第二期復興・創生期間」終了後を見据えた取組を強化しつつ、森林整備の推進を始め、林業担い手の育成、きのこ類の生産振興など、様々な課題に引き続き積極的に取り組む、本県森林・林業の復興・再生を一層実感できる実効性のある施策を展開することが重要であります。

国においては、カーボンニュートラルの実現に向けた森林・林業・木材産業によるグリーン成長を目指した「新しい林業」などの総合的支援、更には、激甚化する災害にも負けない「防災・減災、国土強靱化のための五か年加速化対策」が実施されています。また、県においても「福島県農林水産業振興計画」に基づき、森林再生事業の推進、県産木材安定供給の促進、きのこ生産の振興、林業アカデミーふくしまの運営、森林環境教育の拡充など様々な施策が実施されます。

公益社団法人への移行十一年目を迎える当協会は、今後も県内森林・林業関係団体との連携を強化しつつ、ふくしま復興のシンボルとして平成三〇年度に行われた全国植樹祭や全国林業後継者大会の成果が次の世代に確実に継承されるよう、「キラリ！森林づくり」をキャッチフレーズに、人づくり（森林整備の推進と森林・林業の振興）、心づくり（緑化の推進）、産地づくり（きのこ類の振興）及び県土づくり（測量設計調査等の実施）の四つの柱で各種事業を積極的に展開してまいりますので、皆様の一層のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

《も く じ》

とびら

豊かで活力ある森林を次の世代へ

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会

会長 小檜山 善 継… 1

令和6年度県林業関係当初予算…………… 2～5

林業アカデミーふくしま就業前長期研修

第2期生修了式の概要…………… 6～9

森林管理署メモ……………10

木の文化を育む⑥……………11

木材市況・ふくしま東西南北……………12

はなしのひろば・お知らせコーナー……………13

令和六年度県林業関係当初予算

福島県農林水産部

1 令和六年度予算について

令和六年度森林林業関係予算は下表のとおりです。

主なものとして、「東日本大震災・原子力災害からの復興の加速化」については、「ふくしま森林再生事業（三、〇八五、四八〇千円）」、「多様な担い手の確保・育成」については、「林業アカデミーふくしま運営事業（八七、六九四千円）」、「活力と魅力ある農山漁村の創生」については、「森林とのきずな事業（一五、六〇六千円）」に取り組んでまいります。

2 施策の展開方向

福島県農林水産業振興計画では、次の六つの施策の展開方向を示しています。

- (1) 東日本大震災・原子力災害からの復興の加速化
- (2) 多様な担い手の確保・育成
- (3) 生産基盤の確保・整備と試験研究の推進
- (4) 需要を創出する流通・販売戦略の実践
- (5) 戦略的な生産活動の展開
- (6) 活力と魅力ある農山漁村の創生

(単位：百万円)

令和6年度 森林・林業・木材産業予算の概要

区 分	R 6 当初	R 5 当初	増減額	増減率
予 算 額 計	15,189	16,515	△ 1,326	0.920
一般事業費	8,514	8,661	△ 147	0.983
公共事業費	6,675	7,854	△ 1,179	0.850
一般公共	4,744	5,949	△ 1,205	0.797
県単公共	1,931	1,905	26	1.014

(注) 予算要求は、林業費（職員費、試験研究費を除く）と林業災害復旧費の合計を計上

六つの施策展開方向のうち、森林林業関係において重点的に取り組む四つの施策展開について、主な予算概要をご紹介します。

一、東日本大震災・原子力災害からの復興の加速化

◆放射性物質除去・低減技術開発事業（森林林業） 一九、〇八五千円
安全・安心な林産物生産のため、放射性物質除去・低減技術等を開発し、成果を迅速に現場に普及します。

令和六年度は、放射性物質の林産物・特用林産物への影響の実態把握と、吸収・抑制・低減技術の開発による生産者支援技術を確立するため、次の調査研究を行います。

- ア キのこの放射性セシウム移行メカニズムの解明
- イ キのこの放射性セシウム汚染対策に関する研究
- ウ 山菜類の放射性物質汚染動態の把握と汚染低減対策
- エ コナラ等立木の汚染実態に関する研究
- オ コナラ等立木の放射性セシウム移行要因等に関する研究
- カ コナラ等広葉樹の利用促進に関する研究
- キ 森林内における放射性物質動態把握調査事業

◆ふくしま森林再生事業

三、〇八五、四八〇千円
原発事故以降、放射性物質の影響により間伐等の森林整備が停滞し、森林の荒廃が懸念されることから、公益的機能の維持増進を図る森林整備とその実施に必要な放射性物質対策を行い、森林の再生を図ります。

- ① 事前調査や森林所有者の同意取得等
- ② 整備前後における空間線量率の測定
- ③ 土砂移動抑制対策（丸太筋工の設置等）
- ④ 森林整備（間伐等）
- ⑤ 路網整備（森林作業道の開設等）



土砂の移動を抑える丸太筋工

◆広葉樹林再生事業

一、六一〇、三三四千円

放射線物質の影響によりきのこ原木や薪炭用原木の指標値（原木として利用可能な放射性物質濃度）を超える原木林については、原木の生産が停止し、次世代への更新に必要な伐採が停滞していることから、萌芽更新（ぼうがこうしん）を促す伐採を行い、きのこ原木林等広葉樹林の再生を図ります。

①事前調査や森林所有者の同意取得等

②更新に必要な伐採、植栽及び下刈



伐採後に萌芽更新した広葉樹林

③路網整備（森林作業道の開設等）

④萌芽枝等の放射性物質濃度調査等

◆放射性物質被害林産物処理支援事業

八〇八、〇〇〇千円

木材加工の工程で発生する樹皮（パーク）については、原発事故前は燃料や肥料等として利用されていましたが、放射性物質の影響から産業廃棄物として処理せざるを得ない状況であるため、製材工場等の木材事業者が安定した事業活動を行い、製材品等の林産物が円滑に流通されるよう、当該処分経費の一部を支援



木材加工の工程で発生した樹皮（パーク）

します。

○汚染樹皮処理支援事業

（貸付）六二一、四〇〇千円
（補助）一八六、六〇〇千円

◆安全なきのこ原木等供給支援事業

二七五、五〇一十千円

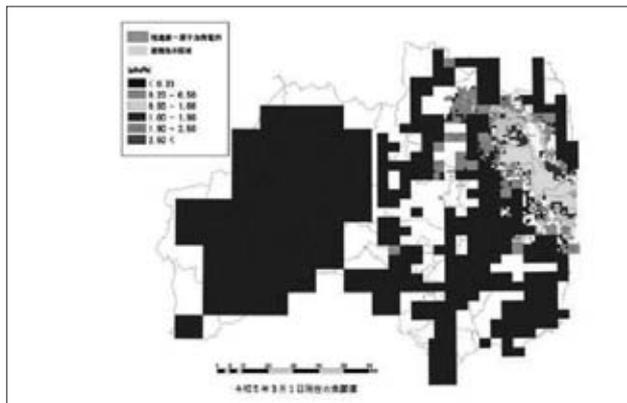
本県は震災前までは全国有数のきのこ原木の供給地でしたが、原発事故による放射性物質の影響により、きのこ原木の生産は大きく落ち込み、その他の栽培きのこの生産資材も運搬経費の掛かり増し等により価格が高騰するなど、生産者にはその調達コストが大きな負担となっています。

このため、栽培きのこ生産者の経営意欲が減退しないよう、きのこ栽培に必要な生産資材の円滑な調達に取り組み団体に対して支援を行い、生産者の負担軽減を図ることに由り、本県栽培きのこの生産振興を推進します。

◆森林環境モニタリング調査事業

一〇五、〇〇〇千円

県内の民有林を対象に、森林内の空間線量率や立木、土壌に含まれる放射性物質濃度の調査、実証及び結果の評価・解析等を行い、森林における放射性物質対策を推進するため必要な情報整備を行います。



空間線量率の分布

◆里山再生事業 三七、〇〇〇千円

住民が身近に利用してきた日常的に人が立ち入る里山において、住民が安心して利用できる里山の環境作りを推進します。

また、里山再生事業における事業効果を検証し、地域住民の安全・安

心を確保するため、空間線量率等の測定を行います。

- ①放射線物質対策
- ②空間線量率調査



歩行サーベイによる空間線量測定

二、多様な担い手の確保・育成

◆林業アカデミーふくしま運営事業

八七、六九四千円

本県の森林再生や林業・木材産業の成長産業化の実現に必要な林業人材を育成するため、林業アカデミーふくしまにおける研修を実施、運営します。

- ①研修運営費（林業アカデミーふくしまにおいて就業前長期研修及び短期研修を実施）

七八、五六五千円

- ②管理運営費（林業アカデミーふくしま研修施設の管理運営）

九、一二九千円



林業アカデミーふくしま研修施設

三、生産基盤の確保・整備と試験研究の推進

◆福島イノベ構想に基づく林業先端技術展開事業（森林資源利用システムの活用実証試験）

一、〇六六千円

原発事故の影響により森林林業が停滞している旧避難指示区域等の森林において、作業員の被曝を低

減して効率的な森林施業を提案するためには、森林内の詳細な線量分布や森林資源情報の把握が必要です。

このため、3Dスキャナや線量計を搭載したドローンによる森林情報の取得技術や深層学習（AI）を活用し、樹種別の材積、単木毎の樹形や位置、詳細な線量マップ等を解析するシステムを開発しました。令和六年度からは、実証試験及びユーザーからの意見を元にしたシステム改修を行います。

◆林道整備事業（林道整備事業、林業専用道整備事業、林道改良事業）

一、九三六、〇五二千円

安定した林業経営や効率的な森林整備に資する林内路網の整備、林業就業者の多くが居住する山村地域の生活環境の向上、災害時の代替路となる林道の拡張を図ります。

また、既設林道を局部的に改良し機能の向上を図るとともに、橋梁等の重要構造物の点検や修繕を支援し施設の健全性と持続性を保全します。

- ①林内路網の幹線となる林道・林業専用道の開設
- ②災害時の代替路となる林道の整備
- ③既設林道の局部的改良の補助
- ④橋梁等重要施設の点検・修繕の補助

◆森林とのきずな事業（森林環境情報発信事業、若者の森林自己学習支援事業）

一五、六〇六千円

震災や原子力災害発生以降に希薄となった森林との絆を取り戻すと共に、森林を全ての県民で守り育てる意識の醸成を図るため、県内の森林環境や森林づくり活動についての情報収集及び情報発信と、森林環境の

四、活力と魅力ある農山漁村の再生



主伐・再造林地における林内路網の整備（林業専用道屋滝向山線）



学生による間伐体験

適正な保全につながる森林認証の普及と推進と併せ、二酸化炭素吸収源として期待されている森林の価値を更に高めるJ-クレジット制度の普及と推進を行います。

また、全ての世代における森林環境教育の実現に向け、新たな社会の担い手となる二〇歳前後の青年らにおける、森林づくりへの関心と理解の拡大につながる県内大学等の学生団体が取り組む森林づくりワークショップなどの自己学習活動の支援を行います。

森林情報発信サイト「ふくしま森まっぷ」をリニューアルしました！

スマートフォン等からはこちら↑

新URL: <https://f-mori-map.maps.arcgis.com/home/index.html>

◆森林情報（クラウド）活用推進事業（森林環境適正管理事業）
一五、六五〇千円

森林情報の管理と業務の効率化、市町村や林業事業者等との情報共有を図るために導入した「ふくしま森林クラウドシステム」及び県民向け森林情報地図サイト「ふくしま森まっぷ」等の保守・運用を行います。

◆花粉発生源対策
特定機能回復事業（林相転換特別対策）
三、六〇〇千円

六、九〇〇千円

国民的な社会問題となっている『花粉症』を解決するためには、花粉の発生源であるスギ人工林の減少が必要なことから、花粉発生源対策を目的としたスギ人工林の伐採・植替え等への補助を実施します。

「林相転換特別対策」では、スギ人工林伐採重点区域で実施されるスギ人工林の伐採・植替えの「一貫作業」等を補助します。

「花粉の少ない森林づくりモデル事業」では、水源区域等の民有林のうちスギ人工林を伐採した箇所において、花粉の少ない苗木等による「植替え（二、〇〇〇本／畝以下）・下刈り（筋刈り）」をモデル的に行う経費を補助します。

◆治山事業（一般治山事業）
四六〇、七二九千円

森林の維持造成を通じて山地に起因する災害から県民の生命・財産を保全することや、水源かん養、生活環境の保全・形成等を図ることで、安全で安心できる豊かな暮らしの実現を図ります。

事業内容は、山地災害等による被害の防止及び保安林の機能を維持強化するため、溪流や山腹斜面の安定に向けた治山ダム工、土留工等の施設の整備や植栽、森林の造成等を行い、荒廃地及び荒廃危険地等の復旧整備を実施するものです。



林業アカデミーふくしま就業前長期研修 第二期生修了式の概要

福島県林業研究センター

令和六年三月八日に、県内での林業就業者を育成する「林業アカデミーふくしま就業前長期研修」の第二期生修了式を、佐藤宏隆副知事はじめとする来賓の方々のご臨席のもと、挙行しました。式では、一年間の研修を振り返る「研修の軌跡」を投影したのち、伊藤正一林業研究センター所長が修了証書を一人一人に手渡し、式辞を述べました。

佐藤副知事から告辞をいただき、修了生代表の渡辺諒豊さんからは、両親をはじめとした関係する全ての方への感謝の言葉と



修了生代表の渡辺さんの答辞

もに「福島県の明るい未来に向かって、森を育み大切に守り続ける柚人となることをここに決意します。」との答辞があり、式を閉じました。

令和五年度の林業アカデミーふくしま就業前長期研修の運営にあたり、森林・林業関係者の皆様からの多大なご支援とご協力を賜り、厚く感謝申し上げます。引き続き、研修運営へのご支援とご協力をよろしくお願ひします。



ガッツポーズで記念撮影

修了生の言葉



おおつきまなぶ
大槻 学

私は今、林業アカデミーふくしま就業前長期研修の修了の節目を迎え、未来の福島のエコを担っていくべきスタートラインに立っています。ここで培ってきた経験を、安全作業の実践や、環境に配慮した林業を続ける為に活かしていきます。

この研修で印象的なのはチェーンソー伐木造材技術です。林業祭でFLC（ふくしま伐木チャンピオンシップ）に参加しました。大会の目的は安全・速さ・正確性を競い安全作業への意識を広めること。どれだけ練習したかが技術の精度を向上させる必須条件です。言葉で説明できることだけじゃない。本質を理解してないと、ただの真似。アンテナを張り、必要な技術・知識を取りこぼさず吸収して、理解し、身につけることで、上手くなれると信じています。焦らず、正確性を心掛けること。その結果スピードが付き、安全作業に繋がる。だから、惜しみない努力を続けます。

さらに、今まで出会った多くの方々の林業に取り組む姿勢や心構えに熱意を感じ感激し、自分の選んだ道に間違いはなかったと改めて思います。そして、生涯現役で林業に携わる事を決意します。



ごう郷まさとき
郷 政時

私が、アカデミーでの一年を通して林業の現場は危険と隣り合わせであることと技術があればできる限りのリスクを低減できることが分かりました。

また、林業ではチェーンソー技術だけでなく、樹木の知識や木材の特徴や活用方法に対する知識などの幅広いものが必要とされ、それらを一年という短い期間で身につけるためには、このアカデミーは現場に入る前に基礎知識や心構えを学び整える場としては最適だと思います。

私の林業に対する心構えは「悲観論で備え、楽観論で行動せよ」です。作業の際に予想外の事態を想定し対策を立てて備え、実際の作業の際は自然体で能力を最大限発揮できる状態にすることが大切だと思います。

これからの作業では、アカデミーでやってきたことを活かし自分のできることや得意なことを伸ばし、安全に気をつけ林業という仕事をできるだけ長く続けていきたいです。



さとう たか 薫
佐藤 薫

ゆく川の流れば絶えずして、しかも、もとの水にあらず。

林業を志し、一年が経とうとしています。一年前と、現在で何が変わったのか？年齢も四二歳となり、一般的に一年間を研修に費やすことはリスクでしかないように思いました。

しかしながら、この研修を通じ、同じ立場の研修生は年齢も経歴も様々で、その出会いはとても刺激的で、その個性豊かさには驚かされ、この道を選ばなければ得難い時間を過ごすことができ、人生の大きな財産となりました。

また、事業体の教育体制が未だ固まっていない林業において、私たち研修生だけでなく、講師の方、職員の方々におきまして、日々挑戦であることは、やりがい以外の何物でもありませんでした。林業においても、現場作業と法律の規定に乖離があることを知り、これから、私自身も林業に従事する中で、そのような場面にも出くわすこともあると思いますが、狼狽することなく、柔軟性と気概をもって臨みます。

そして、変化する世の中で林業だけに囚われず、自分自身も変わっていきけるよう日々挑戦していきます。

挑戦する中で自分自身をさらに高めへ押し上げられるよう、柚人として歩んでいきます。



さとう たか 貴輝
佐藤 貴輝

一年間アカデミーで過ごして感じたこと。

それは林業に対する価値観が変わったことです。春夏秋冬それぞれ季節ごとの仕事があり、木を伐るだけが林業ではなく、全てを一貫してこなすことが林業なのだ強く感じました。

その上で事故が最も多い産業として認知されているとは思いますが、何が危険で何が原因かをアカデミーでは学ばせてもらい、『では安全に作業するためには？』を念頭に講師の方々にチェーンソーや重機の技術を教わり、スキルの向上を図ることができた一年になったと思います。

自分の中で最も印象に残っているのは、インタースHIPの際に『どんな操作でも、感覚に頼らず本質を理解して根拠を持って取り組む』という言葉でした。そこからは、自分自身でも目に見えるほど上達し自信にもつながったことで視野を広く保つことができようになりました。

この一年で学んだことは基礎です。これからはアカデミーで学んだことを基盤に、自分の林業を、そしてより良い福島の森林を作っていくたいと思います。



しおた そらく
塩田 天空

高校入学時には漠然と環境系の仕事に就きたいとは考えていました。まさか林業従事者になるなんて頭の片隅にもありませんでした。

体力は人並み以下、社会経験も全く無いという中、林業に関わりたくと両親に話すと「正気か」と問われる程に向いていないと思われましたし、自分でも向いていると思っていまませんでした。

それでもアカデミーに入講してから高校で学んでいた勉強とは全く異なる世界に触れ、自分とは無縁だと思っていた資格を取得し、高校時代の後輩からは「先輩が今何をやってるか検討もつかない」と面と向かって言われ、あつという間に一年が経過してしまいました。

光陰矢の如しとは言いますが、高校時代には一年の研修がここまで早いものだと思っていませんでした。これから歩む林業従事者としての時間のうち、このアカデミーで学んだ時間はどれ程の割合を占めるのでしょうか。

林業に関わり始めて一年目。まだまだ増えてゆく知ること、感じることを我が身の糧とし精進していきます。



しみず せいや
清水 聖矢

高校卒業後、林業アカデミーふくしまに入講して一年が経とうとしています。入講した当初は緊張して一年間過ごしていきけるか不安しかありませんでしたが、少しずつ他の研修生たちと話をするうちに馴染めるようになり、今では積極的に自分から声をかけられるようになりました。

この一年間を通して、林業の知識、技術、資格等を得ることが出来ました。私はこれから林業の会社に就く上で色々な経験をすることが出来たと思います。

今後、チェーンソーの扱い方や技術の指導が出来る柚人になれるよう頑張りたいと思います。

林業アカデミーふくしまで多くの方々と接することが出来て良かったと思います。就職してからも事故や怪我をせず、一人前になれるよう頑張ります。



たむら まなと
田村 愛翔

高校を卒業し、林業アカデミーふくしまに入講して一年が経ちました。一年間を通してアカデミーに入っ

てよかったなと思うところは、講義による林業の知識やインターンシ

ップなどを通して色々な人とのつながりを持てたことです。今まで同年代の人との関わりが多く、幅広い年代の方たちとの交流がありませんでした。

そのため幅広い年代の人たちとの交流は多様な意見や考え方を知ることができ、自分の視野が広がり、コミュニケーション能力、特に表現力や言葉使いなどに磨きがかかったと思います。

アカデミーでは技術や知識を学び、講師の先生たちの話を聞いて実行して理解をしていくことに加えて、自分で試行錯誤して成功と失敗を繰り返して反復して自分なりにスキルや知識を身につけることができました。



ほんだ けん
本田 健人

林業アカデミーふくしまに入講してから一年が経ち、とても濃い経験

をすることが出来ました。私は高校を卒業後に林業アカデミーふくしまに入講しました。幅広い年齢層の方々と学ぶことになり着いて行けるか心配でしたが、分からないことや社会について教えていただき、林業だけではない大切なことを知るとても貴重な時間を過ごすことができました。

また、安全に関する知識や伐木の技術はもちろんのこと、林業を行う上で必要な資格をほとんど取ることができました。そして、インターンシップでは実際の現場でどの様な作業をしているのか現役で活躍している方々のお話を生で聞くことができ、林業に携わる上で大切な考えや技術を学ぶことが出来ました。

林業アカデミーふくしまで様々な方のお世話になり林業について学ぶことができたので、「杣人」になり自分が林業を教えられるようになりたいです。



みどりかわ かいと
緑川 海斗

林業アカデミーふくしまでの一年間は、非常に刺激的な経験でした。森林管理の重要性や生態系の複雑さについて深く理解することができました。実践的な面では、伐採や刈払いなどの一般的な林業業務を経験しました。特に、一年を通してチェーンソーの取り扱いについて学び、その難しさや安全性の重要性について事故の事例などを通じて学ぶことができました。

また、林業における最新の技術や研究についての講義も受け、他の分野に比べてデジタル化が遅れていることや、IT化が容易ではないことを知ることができました。

総じて、林業アカデミーふくしまでの一年間は充実したものでした。林業の専門知識だけでなく、環境保護や持続可能な開発に向けた意識も高められたと感じています。修了後は本格的に林業に携わっていくことになりそうです。アカデミーで学んだことを生かして、業務に臨んでいきたいと思えます。



むとう ゆい
武藤 唯

林業に携わることで自分が何になるのか、慎重に深く考え続けた一年でした。アカデミーを通して様々な方と出会えたことは、林業は奥が深く、非常に面白いものだと思えることができ、固定されない中立的な学びの中で自分が目指したい林業の姿を見つけることができました。

このように、自分が出した答えに基づいて今行動できていることに、確かな選択となる環境を与えてくださったアカデミーと、アカデミーに関わってくださった皆様に深く感謝します。

今後は『森をデザインする人』を目指して、確かな技術と技能を備えた説得力のある人間になれるように、アカデミーで学んだ基本を忘れず、林業と向き合っていきます。やった分だけの人間にしかないので、大事なことをしっかりとやり続けられるように、自由に広く柔らかい心をもって、学んだことを経験し、感じてまた選択して、疑うことを止めず、試行錯誤の繰り返しの中でこれからも人間として成長し続けていきたいと思えます。

私たちはこの一年毎日をふりかえってきました。

整理・復習・共有のために、その日の講義の感想と新しく理解したこと、そして今後の抱負を、「ふりかえりシート」に書き記してきました。私は始め日報のようなものだと考えていましたが、書き続けるにつれ「これは『自分の言葉をチカラにする』ものだ」と思うようになりました。

言語化すると一体何が変わるのか。それは将来の自分に近づくための行動が具体化されるといえるのが一番大きいです。さらに、今自分がしなければいけないことが何なのか、明確になります。これがポジティブな面だけでなく、自分が上手く出来ないことにも作用してくれます。自分の嫌な部分をわざわざ言語化して分かりやすくするのは、痛みが伴います。しかし、スキルアップしたいと思った時には、何が苦手で下手なのかをきちんと理解することが大切だと知りました。だから痛みなくして得るものはないのだと。

この先も自分のできないこととできることを謙虚に見つめて、行動するための手段として『自分の言葉をチカラにする』を芯に持ち、修了後も前へと進み続けます。



やすだ ちかし
安田 周知

林業を生涯の職にすると決め、会社を退職し不安の中スタートしたアカデミーでの研修生活でしたが無事に修了することができ、四月から三島町の佐久間建設工業(株)様にて林業従事者としての生活が始まります。

この一年間では資格取得、伐倒・造材の練習だけでなく森林・林業の基礎、樹木学、林産利用、放射線物質対策、先端林業技術、インターンシップなどアカデミーでしか学習・経験できない講義が数多くあり、講師の先生方をはじめ、各団体・事業体の皆様、企画・運営していただいた県職員・運営委員の皆様のご支援があったからこそ充実した研修生活を送ることができました。本当にありがとうございました。

第二期生として学び、技術を高め合った仲間と共に福島県森林・自然・林業がより良い魅力あるものになるように、アカデミーで身につけた技術・知識を存分に生かし、日々課題を見つけ向上し続けながら安全第一で業務に励んでいきたいと思えます。



やまだ そういちろう
山田 聡一郎

「アカデミーの研修が修了したらこれからは自分の力で学びにいかなければならぬ」と講師の方に言われた時に、一年間の研修が終わってしまうということを実感したと共に、この一年間とても恵まれた環境で自分は学べていたのだということに改めて気付かされました。

アカデミーの研修では林業に関する資格取得、知識・技術の習得、そして様々な事業体や森林組合の事業内容、経営理念に触れることができました。また、研究や開発の面でも講義を設けていただき、林業を多方向から見ることや、福島県が抱える課題も知ることができました。

これは本当にアカデミーでしか学べないことだと思います。

私がアカデミーに入講した動機は、地元の林業の復興・活性化を目指したいということと、よりたくさんの人に林業に興味を持ってもらいたいという思いからでした。この一年間の研修でそれを叶えるための基盤を身に付けられたことが一番の収穫だと感じています。アカデミーで学んだ知識・技術はまだ点ではあります。アカデミーで学んだ知識・技術は実践での学びを深め、その点と点を繋げていけるよう、一日一日を大事に林業に取り組みしていきます。



よしだ かおり
吉田 香織

林業アカデミーふくしまで多くの人と出会い、多くのことを学ぶことが出来ました。入講して初めての伐木実習では、チェーンソーが怖く、体で支えることができず、初めての伐倒では一本切るのに三〇分も時間をかけてしまうこともありましたが、他にも林業機械の実習では操作が覚えられず一つの作業に多くの時間をかけてしまったりと、周りの研修生に置いてかれないよう必死で、本当に林業を続けて行けるのか不安になってしまいう時もありました。しかし、講師の方々やアカデミーの一期生の先輩方、同じ研修生の皆さんに技術面だけでなく精神面でも沢山のアドバイスを頂き、基本を大切に作業することの大切さを学ぶことが出来ました。

就職後、辛いことも沢山あると思いますが、楽しみながら作業できるよう、多くの知識や技術を身につけられるよう努力します。

高校を卒業してアカデミーに入り、社会経験が無い自分は同じ研修生、講師の方々にも多くの迷惑をかけてしまうことありましたが、最後まで共に受講出来たことを感謝しています。

一年間ありがとうございました。



わたなべ りょうと
渡辺 諒豊

団体のページ

森林管理署メト

地域とともに歩む 南会津支署の取組



会津森林管理署南会津支署は、南会津郡の南会津町（旧南郷村、旧伊南村、旧館岩村）、只見町、檜枝岐村に所在する国有林の管理を行っています。管内には尾瀬国立公園や越後三山只見国定公園などの自然公園を有しており、東北以北で最高峰の燧ヶ岳、プリンのような形をした山頂が高層湿原の田代山、降り積もった雪が雪崩となり山肌を削る世界的にもめずらしい雪食地形の浅草岳など独特な自然景観が広がっています。

このような自然豊かな地域に根差した国有林の取組を紹介します。

1 只見町と連携したナラ枯れ対策

管内のカシノナガキクイムシ（以下「カシナガ」）によるナラ枯れ被害は、平成二二年から只見町で確認



ナラ枯れ対策（おとり丸太誘引状況共同調査見学会）



ナラ枯れ対策（講習会）



伊南小学校 森林教室（木工工作）

されるようになり、ナラ枯れ被害対策として、平成二六年度から「おとり丸太法」による駆除を実施しています。おとり丸太法とは、健全なナラの丸太を一定数量定点に置き、カシナガが好む合成フェロモン剤も併せて設置し、周辺のカシナガを誘引、誘引後はくん蒸処理を行う捕殺方法です。

平成三〇年度からは、只見町役場

と連携し、各設置箇所での結果検証を合同で行っており、令和五年度は、只見町役場、南会津農林事務所のご協力を得て、管外の会津地域の行政機関にも声掛けを行い、専門家を招き「おとり丸太誘引状況共同調査見学会」及び「ナラ枯れ被害の実態と防除法」と題して講習会を開催、各行政機関の担当者による活発な意見交換が行われました。

2 森林教室

毎年、伊南小学校の依頼を受け、一・二年生児童を対象に、社会と自然に触れ合う教育の一環として、木工工作を行っています。森林整備時に出たブナやナラの小径木の輪切り丸太、様々な樹木の小枝及び木の実

などを使って思い思いの作品を制作しました。

当初は、「何を作ったらよいのかなあ？」や私たち職員に「どう接したらよいのかなあ？」と不安げでしたが、輪切り丸太や松ぼっくりに触れ出すと創作力が開花、職員も驚く作品を作る児童や職員へ積極的な話し掛けをし、一緒に考えながら作品を作る児童など様々、個性あふれる作品が数多く出来上がりました。

会津森林管理署南会津支署では、森林・林業における地域の課題とともに、森林教室などを通じて森づくりに関心を持ってもらえるよう、今後とも取り組んでまいります。

木の文化を育む⁶¹

森が循環する建築〜リジエネラティブデザインの創造〜

(株式会社ADX)

郡山女子大学 生活科学科 建築デザイン専攻 准教授 阿部 恵利子

はじめに

地球の未来をより良く改善していくためにはリジエネラティブな思考が不可欠です。「再生(更生)させる」を意味するリジエネラティブは、世界各地で地球温暖化や異常気象が問題視されるようになった今日、荒廃した土壌や海の生態系を取り戻すための取り組みとしても目にするようになりまし。自然環境を改善しながら人間の活動と自然を一体に捉え、作ったものを自然に還元・循環するサイクルの構築は、失われてきた自然環境の再生に繋がります。

○「森と生きる。」

株式会社ADX 代表取締役 安齋好太郎さんは、祖父の代から続く安齋建設工業(二本松市)の三代目です。「森と生きる。」をフィロソフィーとし、日本各地で環境に配慮した自然と共生する革新的なプロジェクトを手掛けています。

自然と共生するサステイナブルな建築を目指し、二〇〇六年にADX(旧Life style工房)を創業した安齋

さんは、木の特色を活かし、木の新しい可能性を追求したダイナミックな建築を得意としています。幼い頃から木に触れて育ったことから、木材・木造建築に造詣が深いことで知られ、ウッドクリエーターとして国内外の大学や企業で講演活動を行っており、登山をライフワークとしています。

安齋さんは福島・安達太良山の麓にある本社と東京・日本橋オフィスとの二拠点で活動しており、建築が増えるほど森が豊かになっていくリジエネラティブ(自然再生型)な事業を展開しています。木材を豊富に活かした建築を目指し、自然に還元しやすい素材のみを使用する工夫や建材のトレーサビリティの設計、最新のテクノロジーを用いた設計・施工・プロダクト開発・森林地域における開発行為のコンサルティングなど、森を主軸とした幅広い事業を推進しています。

建築の可能性を追求し、様々な分野の新しい技術と情報を取り入れな

がら、近年は「五浦の家」「One year project」ほか、ウッドデザイン賞2022「SANU 2nd Home」最終優秀賞(環境大臣賞)、ウッドシテイTOKYOモデル建築賞「KITOKI」最優秀賞(知事賞)受賞しました。これまでも数多くの受賞歴があります。

○森のカルテ

森林は木材の他にも、土壌、水資源、多様な生物、大気など自然によって形成される様々な資本を保有していることから、株式会社ADXでは、3D測量データや土中、水中から採取される生物由来のDNAを調査・分析し、森林地域が持つ多面的な価値を統合的に可視化、評価しています。

○事業開発・コンサルティング

森林資源を有効活用した事業開発の重要性がますます高まっていることから、森林地域開発の豊富な実績を生かし、企業のカーボンオフセットの計画検討からサーキュラーマテリアルの開発、自然立地型施設の事業立案・展開までトータルで支援しています。

○環境配慮型建築の企画・設計

森のカルテや環境シミュレーションデータを活用し、周囲の生態系や環境への負荷を最小化しながら、自然と調和し共存する建築のあり方を計画しています。木造建築に特化し

た独自の幅広い知見を生かし、作れば作るほど森が豊かになる、リジエネラティブな環境配慮型建築を実現しています。

○環境配慮型建築の施工・プロダクト開発

デジタル化されたデータを基にラボで部材を製作することで、環境に負荷がかかる現地での施工期間を極力減らすとともに、安全且つ持続可能なメンテナンス体制を構築しています。また、森林組合や製材所とのパートナーシップを強みとし、木材の加工や解体に至るトレーサビリティも視野に入れた仕組みを提案しています。

○まとめ

「それぞれの山の特徴を熟知し、その場所の気候にあった素材選び、環境を乱さない施工方法、工事現場から出るゴミの削減を考慮するなど、長期間維持させることを目的として建てられている山小屋は、そのほとんどが木造建築でありながら約百年の耐久性があると言われており、現代で言うサステイナブルの考え方を基本に作られている」と安齋さん。子供の頃から山が好きで、いつか自分で山小屋を作りたいと思っているとのこと。株式会社ADXでは、どんなプロジェクトを推進するときも、持続可能な山小屋づくりの考え方をベースに取り組んでいます。

県森連いわき共販における木材市況（3月分）

令和6年4月1日
福島県森林組合連合会

(単位：㎡当り千円)

樹種	素 材				摘 要
	長 級 (m)	径 級 (cm)	高 値	低 値	
スギ	4.00	9下	12.0	11.5	
		10~13	14.0	13.5	
		24上	13.8	12.1	
	3.65	16上			
		24上	12.5	12.2	
	3.00	9下	10.2	8.0	
		10~13	12.0	11.5	
		14~16	12.4	11.8	
		18~20	14.4	14.0	
	6.00	22上	14.7	14.1	
16~20					
2.00	16上	7.5	6.0		
ヒノキ	4.00	10~13			
		14~16	18.0	17.0	
		18~20	20.1	19.1	
		22上	21.2	19.5	
3.00	16~20	15.8	15.0		
アカマツ	4.80	18~22			
	4.00	18~22			
		24上	11.0	10.5	
	3.00	16~22			
		24上	10.5	10.2	

樹種	素 材				摘 要
	長 級 (m)	径 級 (cm)	高 値	低 値	
カラマツ	4.00	12下			
		13~14			
		16上			
クリ	4.00	16上			
	3.00	16上			
モミ	4.00	20上			

市況概要と市況展望	4月の共販日
入荷はまずまずです。販売量は2,990㎡（前年同月比88%）でした。 市況は、スギ3.00m柱材、中目材ともに横ばいを保っています。 スギ4.00m材も24-32cm、34cm上材に応札あり活発に取り引きされています。 スギ小径木（3.00m、4.00m）が不足しております。造材方よろしくお願い致します。	8日(月) 17日(水) 26日(金)

行 事 と お 知 ら せ
県森連の木材市況は、県森連のホームページでもご覧いただけます。 <div style="text-align: right;"> 福島県森林組合連合会 木材市況 検索 </div>

「濛々（もうもう）」の言葉の意味を調べると、「煙や塵埃などのたちこめるさま」とあります。しかしながら、東白川郡に居住しているとその意味を調べるまでもなく体感することになります。

三月のうらかな日のお昼前、山火事かと思紛うほどに見渡す限りの山が煙っています。スギ花粉です。こんな時に山に向かうと、前を行く車は黄緑の煙を巻き上げ、山の中で足を踏み出すたびに「もわっ」と花粉が舞い上がります。見上げれば、花粉が太陽光を反射し金色にキラキラと輝いており、ここで既視感に襲われます。そう、「風の谷のナウシカ」。「ムシゴヤシが午後の胞子を飛ばしている。綺麗！」のシーンがフラッシュバックします。続く台詞は「マスクをしなければ五分で肺が腐ってしまう死の森なのに…」、周りを見ると花粉症勢がたらそうにしており、物語の世界に迷い込んだ気持ちになります。

東白川郡の人工林針葉樹面積は民



濛々たる景色

福島県南農林事務所 高橋 敦 宏



ふくしま森林再生事業により整備されたスギ林

国合わせて約二万九千餘で、総土地面積に占める比率は約四五割（全県約二二割）にも上ります。そして、民有林においては、人工林針葉樹面積の約九七割が、スギが花粉を多くつけるようになるという三〇年生を超える森林です。

濛々たる景色の中、その言葉の意味だけでなく、統計値が示す当地域の資源の内容までも感覚的に理解し、皆伐・再造林による更新を進めていくためにはどうしたらよいものかと思いを巡らせています。

はなしの
ひるば

予 告

朝の光がこんなにも明るくきれいだっただのかと、初めて知ったような春の朝だった。こんなにも明るい光を障子越しに感じると、今日一日を丁寧にごしてみたという気になってくる。光が明るくなってくる分、四方を囲む山々や、町の緑にも視線がいく。気がつく、若葉が芽吹く前は、一時霽に包まれている色合いになる。それは「翠霽」と表現され、また、ヤナギの芽は「緑煙糸」と表現される（大漢和辞典より）が、その霽の期間は、わずか三日から七日間位であり、その後すぐに若葉の時を迎えるという。また、ロシアでは、二月十五日から四月二日頃まで「光の春」という季節がある。風は冷たいが、氷柱から落ちる水滴が輝いて落ち、光は確実に春の到来を約束しているという。今朝は、まさにそんな季節を感じさせてくれた光だ。吹き渡る風もどことなく「まああるく、なめらか」になってきたような気がする。今冬は、降雪量も少なく暖冬だったとはいえ、光や風に「春」を感じられるのは何とも言えず、うれしい。

光の春も霽も、本格的な春が来る前の予告ともいえる。桜の開花やウグイスの初鳴きに春の到来を感じていたが、その予告にも十分に「春を愛でる」気持ちになる。

四月は、新しい環境に入る人も多く「寒の戻り」の寒暖差と共に落ち着かない日々が続く、身体の不調を感じる人も少なくないだろう。春は「バテの季節」でもある。が、この号が皆さまに届く頃、桜前線はどこまで北上しているだろうか。

(都)

表紙の写真



「萌え出づる」

第38回ふくしま緑の写真コンクール入選
受賞者 菅野勝人さん(郡山市)
撮影場所:北塩原村
撮影スポット:裏磐梯 桜峠

編 集

福島県内 四森林管理署

福島県森林・林業・緑化協会

福島県木材協同組合連合会

福島県農林種苗農業協同組合

ふくしま緑の森づくり公社

森林研究・整備機構福島水源林整備事務所

福島県森林・林業・緑化協会

(福島市中町五番一八号県林業会館内)

飯沼 隆

発行人

発 行

陽光社印刷株式会社

(定価 110円)

お知らせコーナー

第36回きのご料理コンクール全国大会 「林野庁長官賞」受賞

令和6年3月5日、東京の服部栄養専門学校にて全国大会が開催されました。

福島県の代表者である荒明なな葉さんは全国1位の賞となる林野庁長官賞を受賞されました。初参加の県もあり参加人数が多いなか、荒明さんは会場の雰囲気のにまれることなく平常心で臨んだとのこと。見事に最高賞受賞となりました。

審査員の方々からの感想は、「衝撃的な料理だった。幅の広い大根をピーラーで薄く切った上に豚肉を巻いたのでお肉が柔らかく炊かれ、さらにはふんだんにきのこを使ったためとても味が良かった。花束のような見た目の美しさだけでなく栄養バランスも汎用性も抜群だった。」と素晴らしい評価をいただきました。

調理や審査風景、作品などの詳細は日本特用林産振興会のホームページに順次掲載されますので、是非ご覧ください。

【林野庁長官賞受賞作品】



ヘルシー ビューティー ボリューム
きのこ巻き巻き福島鍋



【調理審査の様子】



【記念写真】

【受賞者一覧】

本 賞	県名	氏 名
林 野 庁 長 官 賞	福 島	荒明なな葉
	鳥 取	中村 篤志
しいたけ等特用林産振興議員連盟会長賞	群 馬	小林 弥琴
	長 野	高野 大地
服部栄養専門学校校長賞	愛 媛	横田 英美
	山 形	小嶋 寿那
日本特用林産振興会会長賞	栃 木	橋本 璃瑛
	栃 木	高野 歩唯
	和歌山	千品 吉嗣
	大 分	山本 愛菜
	鹿児島	迫田 貴虎
	沖 縄	大宜見かおり

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



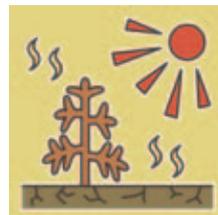
3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》



たまちい

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)

または最寄りの森林組合



そよりん

イワフジのGPシリーズ
グラップルプロセッサ

GP-35B

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

製品情報



傾斜地に対応した全回転チルトプロセッサ

- ・最大38度のチルト機能により傾斜地での作業性が大幅に向上
- ・全回転ローテータにより油圧ホースが絡む心配不要
- ・サイドカッタ解除機能により曲がり材に対応
- ・大容量油圧システムと強化型送りモータによるパワフルな送材
- ・GP-CANコントローラを搭載
- ・新開発のスタッドローラ

For the future with forest



イワフジ工業株式会社

<http://www.iwafuji.co.jp/>



(仙台支店) 〒981-3133 宮城県仙台市泉区中央1丁目16-6
TEL 022-347-3689 FAX 022-347-3699
(本社・工場) 岩手県奥州市水沢字校屋敷西5-1
(支店) 札幌・東北・仙台・関東・中部・関西・中四国・九州



東北コピー販売

福島office 福島市御山一本松13番5号 TEL 024-559-0245
郡山office 郡山市富田町後久保60-1 TEL 024-961-1961

<https://t-copy.co.jp>



人と共に 緑と共に

For Professional



BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

ZHM1550RR



刈幅：1500mm 出力：27.5kW



SR3100



破砕径：200mm 出力：18.4kW

For Professional



GZ3950EZ
排気量 39.1cc

GZ4350EZ
排気量 43.1cc



ハスクバーナ・ゼノア(株) 福島県代理店

(有) うねめ 林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1